

第6期大東市一般廃棄物処理基本計画（素案）のパブリックコメントで寄せられた意見と  
それに対する本市の考え方  
(提出人数：1人 意見数：1件)

No.	意見の概要	本市の考え方
1	家庭や企業から排出される生ごみ、木材、落葉等を行政にて集約の上、堆肥化し、農地、公園、学校、市民農園などで活用できれば、ごみの焼却処理経費が削減できる上、資源としての堆肥が生産できる。また、できた堆肥をブランド化し、大東市のPRに活用する。	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>本市ではこれまでも「生ごみ処理機等設置補助制度」を設け、家庭から排出される生ごみの資源化、減量化に取り組むとともに、庁内では「生ごみ実質ゼロ作戦」として、段ボールコンポストを活用して、職員の弁当などの食べ残しを堆肥化し、できた堆肥を公共施設の花壇などに活用いただく取組も実施しています。また、「大東市オリジナルフードドライブ活動」により、食品ロスの削減（発生抑制）にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>本市のような都市部におきましては、堆肥化するための土地確保の難しさ、農家が少なく堆肥の需要先が少ないという課題があり、直ちに対応することは難しいですが、本市の付加価値を高めるプランディングの考え方は重要であると考えています。</p> <p>今後、本市の人口規模及び都市形態等も考慮し、先進事例や技術革新などの情報収集を行ながら、調査・研究を進めるともに、脱炭素時代のバイオマスの循環活用は重要な課題であるという認識のもと、引き続き市民の皆様一人ひとりが環境意識を持ってごみ減量等の諸課題に協働して取り組んでいけるような施策に努めてまいります。</p>